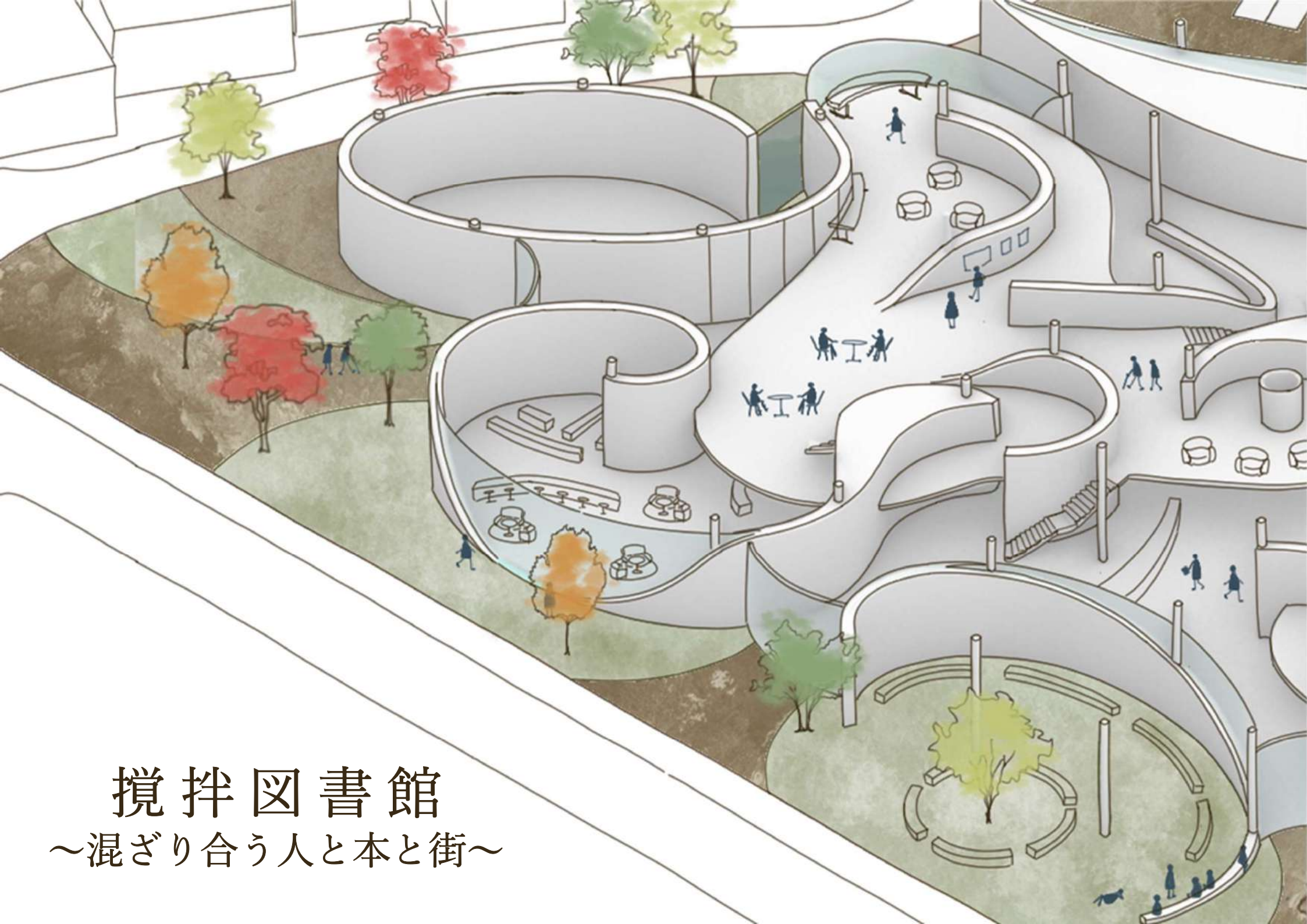




攪拌図書館

～混ざり合う人と本と街～



00. 従来の図書館

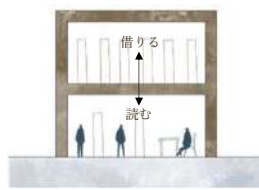
従来の図書館は「本を借り、読む」ための空間である。
それを合理的に叶えるために、書架と閲覧スペースは分断され、
本は行儀よく整列されている。

現代の忙しい人々は、目的の本と場所を事前に調べて、
それを借りてすぐに帰る、という人が多い気がする。

使い方としては間違っていないが、
新たな本や人との出会う機会を逃しているとは私は考える。



分断された書架と閲覧スペース



閉じられた図書館

01. 提案する図書館

そこで私は「人と人」「内と外」「昔と今」など、あらゆるものをかき混ぜて、新しいものを生み出す
「**攪拌-かくはん-**」する図書館を提案する。AとBを分断させず、攪拌することで、思いもよらない新しいものを
発見したり、生成させたりする。それを建築で体現したい。

攪拌を体現すべく、曲線の壁のみで空間を作る。壁によって制限され、誘導された先で、新たな人や
本との出会いが生まれる。1階は壁で制限するのに対し、2階は床で制限する。2階は壁を横断して
部分的に作ることで、1階で生まれた音や声や香りなどの賑わいが伝わる。

そこは、人々が思い思いに歩き、笑い、食事し、佇む、攪拌された図書空間となる。

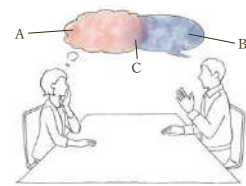


02. 身近な攪拌



食の攪拌

- ・コーヒーとミルクを、混ぜる
- ・サラダとドレッシングを、混ぜる



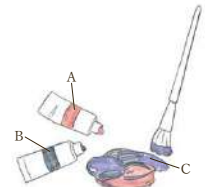
社会の攪拌

- ・クラス替えや部署異動で人が入れ替わり、混ざる
- ・異なる文化や価値観に触れ 自分の考えと、混ざる

「攪拌」という操作をすることで、美味しいもの、美しいもの、新しいものが生まれる。

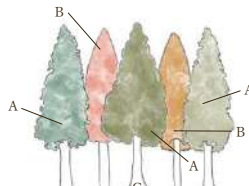
A+B=CのCには、今までにない無限の可能性に満ちている。

そんな多機能な空間を、この敷地に生み出す。



趣の攪拌

- ・絵の具の色を、混ぜる
- ・土と肥料を、混ぜる



自然の攪拌

- ・異なる植物の種が選ばれて、混ざる
- ・自然界の交配により、混ざる

03. 敷地

今回の計画地は、広島工業大学のアプローチ道路に接している。
いわば大学の顔となる場所にある。

北側は山、南東側は川が流れており、自然を感じられる中間地点に位置している。

加えて数年後には、この計画地のそばに都市計画道路が通ることが
予定されている。

よって、学生や教員、佐伯区に住まう地域の人のみならず、
県外から訪れる人々に向けた「広島工業大学を象徴する」建築やプログラムを
考えることが必要である。



04-1. 建築の攪拌-交流-

○未知なる本、人と出会う

湾曲した壁に沿わせて配置された
本棚を眺めて歩けば、人がゆったりと
くつろげる閲覧スペースに辿り着く。

そこでは、同じく手に取った本を嗜む
人々が、思い思いに過ごしている。



○広島大生の強みを活かしたPCエリア

一人でPCを使うだけの部屋ではなく、
広島工業大学の工学部や情報学部の学生が、
地域の人にデジタルデバイスの使い方を
教えるエリアを設ける。

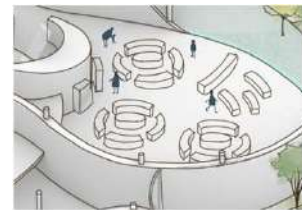
壁で仕切られたNexus21のPCルームは、
心理的に入りにくい。

一方、この図書館では、
大学の勝手に慣れない地域の人でも触れやすく、
学生も教えやすい空間ができる。



○学科・団体問わず使えるシェアキッチン

サービス施設の1つに、シェアキッチンを設けた。
ここでは、とあるサークルをはじめとした学生らや
親子や友達など、地域の人々らがここで交流する。
一人暮らしの学生は、ここで夕食をすませて
帰宅する。



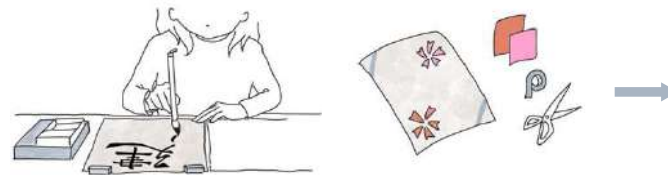
04-2. 建築の攪拌-時代-

敷地のある五日市では、その昔「紙すき」という産業が発展していた。

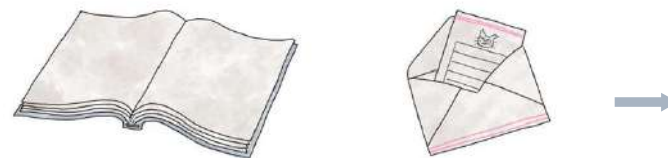
また現代では、携帯などのスマートデバイスの普及により「紙離れ」という問題が顕著に表れている。

紙という共通点があることから、私は時代をも攪拌する+α施設「カミノワ」を提案する。

紙を一から創ることで、五日市の歴史と紙の良さを学べる、昔と今の時代を攪拌する+α施設となっている。



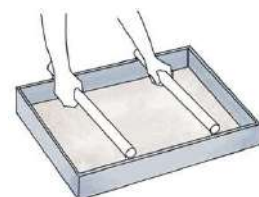
子どもたちはクラフトペーパーで書道や絵葉書を作成
発表・発信施設にて展示会を催す



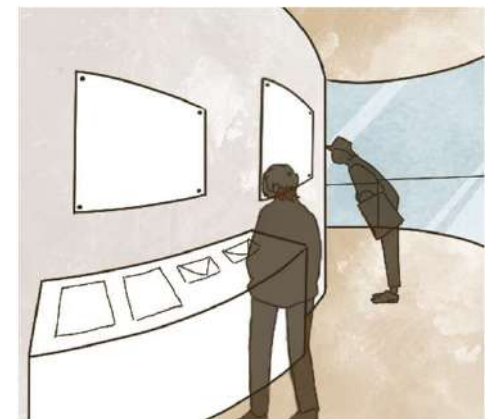
大人たちはクラフトペーパーで和綴じノートや便箋を作成
エッセイや大切な人に手紙を書く機会作りになる



「五日市町誌」p348より引用

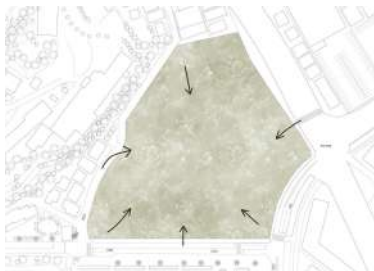


「カミノワ」でアルバイト学生や
職人さんたちと楽しく「紙すき」を体験



本施設の湾曲した壁を使いながらそれらを展示
発表・発信施設にて表彰を行う

04-3. 建築の搅拌-敷地-



この敷地を見たとき、多方向に開けていることに気づいた。
同時に、ファサードを作らない建築とすることで、
建築と敷地の搅拌を行おうと考えた。



可視化した動線をもとに、誰がどこからやってくるのか、
なぜそこを利用するのかを考え、適切な位置に機能を振っていく。



搅拌した空間とするために、上記でゾーニングした機能を混ぜ合わせる。
それぞれを隔離しないことで、一つの建築の中で様々な機能が混ざり合い、
新たな領域が生まれる。



これらの機能満ちた空間を、湾曲した壁でゆるやかに作り出す。
内外を同じデザインコードで作ることで、全方向から見ても
統一されたファサードを作り上げている。

05. 配置計画



配置図 S=1 : 500

○ 間仕切り壁を設けない

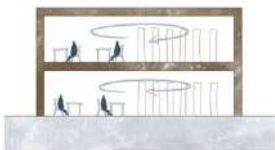


間仕切り壁で閉じられた空間は、人の存在が認識しにくい。
ガラスで仕切れ、視認できたとしても心理的にその中で行われている交流に入っていこうという気は起きない。



湾曲した壁で緩やかに空間を遮ることで内と外という物理的・心理的な境界がなくなり、人の声やおいしそうな匂い、楽しげで居心地のよい雰囲気が搅拌する。

○ 2Fスラブは部分的に



2階スラブで覆ってしまうと、上下階の繋がりが完全に分断される。
誰が何をしているのか。どのような催しがされ、どんな雰囲気なのか
伝わらないため、人は移動しようと思わない。



よって、2階スラブは部分的に設置する。
他は全て吹き抜けとすることで上下階の雰囲気が伝播し、人はそれに興味を覚える。本を借りるために訪れたが、寄り道をしようと足を運ぶ。



07. 設計概要

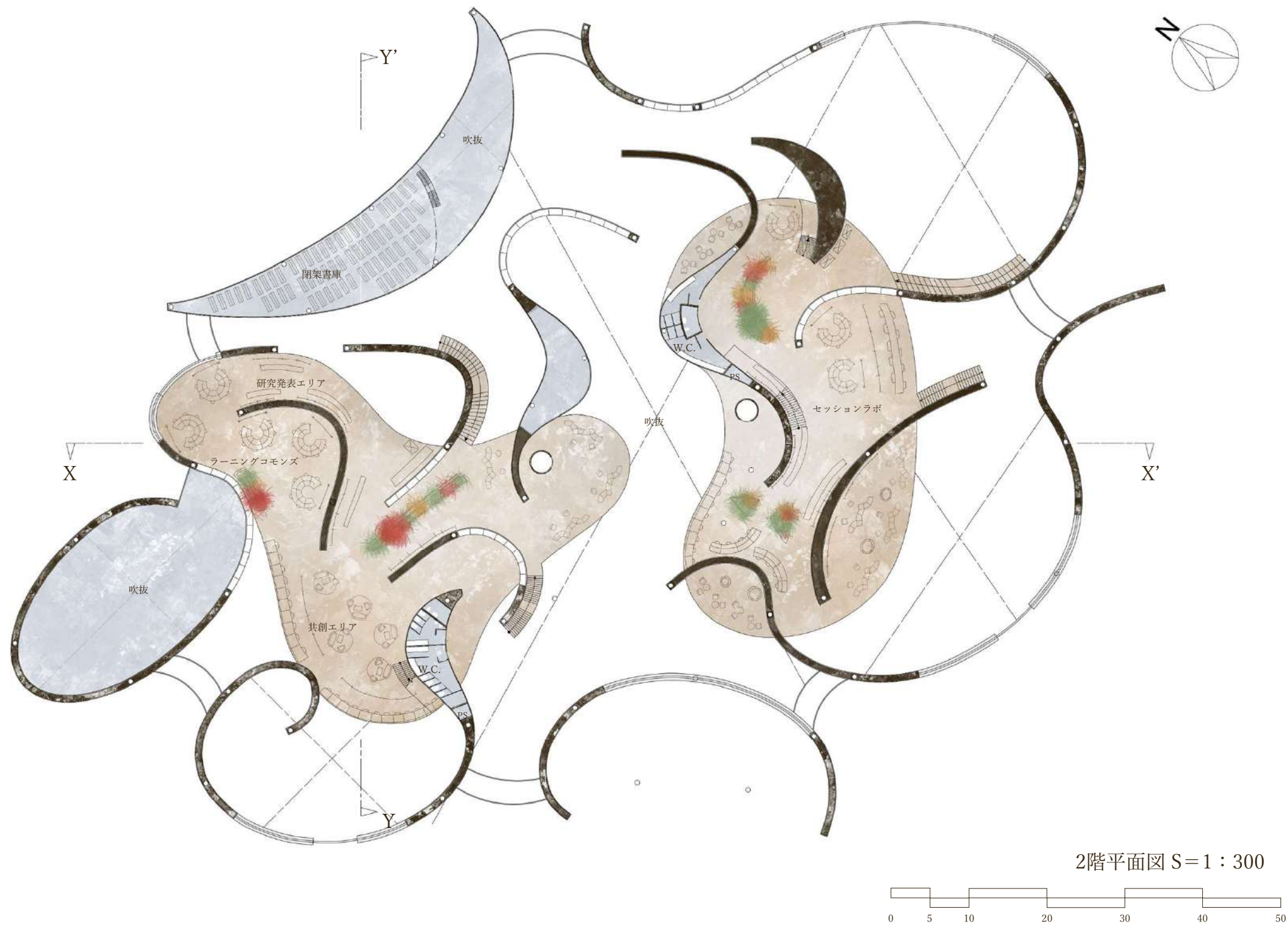
08-1. 提案

敷地場所：広島市佐伯区三筋3丁目
用途地域：第一種中高層住居地域
防火地域：法22条区域
敷地面積：9,073.00㎡
建ぺい率：60%以下（角地緩和70%）
容積率：200%以下
道路：東側4.6m（都市計画道路21m）
：西側29m（広島大アプローチャ道路）
：南側12m、北側6m（拡幅後）

用途：大学複合施設（図書館・学生会館）
構造：鉄骨造
階数：地上2階

敷地面積：19,200.0㎡
建築面積：9,075.6㎡
各階床面積1階：9,075.6㎡
2階：2,773.3㎡
延床面積：11,848.9㎡
建ぺい率：47.2%
容積率：61.7%

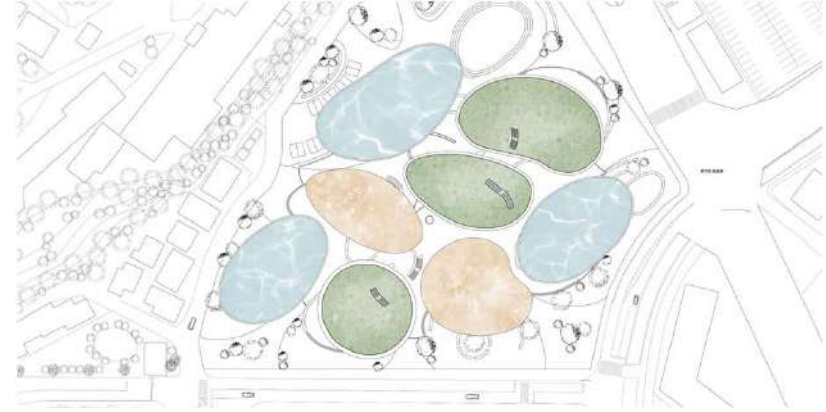






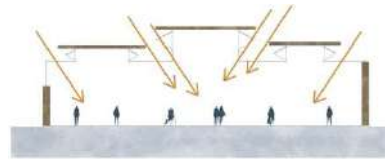
○ 壁の形式に沿わせない屋根

湾曲した壁をかたどった屋根は、使う人にとって本当にいいものになるのか。
それは、壁を主張させたいだけの、建築家のエゴではないか。ここに訪れた人は、入った瞬間何を求めるのか。
そう考えた私は、あえて壁の形式に沿わせない屋根を考えた。

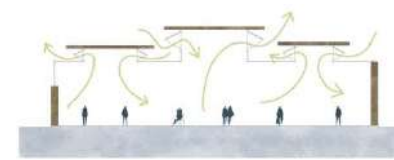


2Fのスラブ同様に、壁を横断した屋根を“重ねず”にかけ、間はトップライトとした。
また、それぞれの高さを変えて、自動開閉式のハイスайдライトを設けることで、暗くなりがちな内部にも光を入れられるようになった。

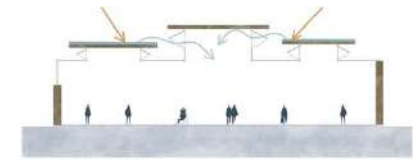
○ サステナブルな取り組み



それぞれのトップライト、ハイスайдライトから、
光が漏れて入りこみ、空間と攪拌する。
また、あえて屋根スラブを重ねないことで生まれた
隙間が、内部の場へ導く「道」のような役割も果たす。
時間帯によって陽の入る角度が変わることで、
様々な表情を見せる。



屋根の高さをバラして設けたハイスайдライトを
自動開閉式にすることで、上下に風が流れ、建築全体の
換気を行うことができる。涼しい時期は常時開けて
おくことで、風の音や鳥のさえずりが空間と攪拌する。



低い位置の屋根は水盤とすることで、水面で冷やされた
風を内側に取り込む。大空間の冷房効率を下げることで、
省エネ化に繋がる。
また、高い位置の屋根は屋上緑化とした。屋根同士は
重ならず、高さが異なっていることで、トップライトから
上下のアクティビティを覗くことができる。



08-4. 提案

